

## 平成 26 年度学校評価 自己評価書

学校名	北海道雨竜高等養護学校
-----	-------------

### 1 本年度の重点目標

- (1) キャリア教育を推進し、職業自立・社会参加への取組を充実。
- ・キャリア発達を促す指導計画・指導内容を充実し授業実践による検証を推進する。
  - ・地域・社会とのコミュニケーションを双方向から推進する。
  - ・産業構造の変化に対応した職場開拓と進路指導の充実を図る。
- (2) 社会の一員として、あいさつの励行と礼儀やマナーの向上を推進。
- ・生徒の自主的な取組を推進し、規範意識を高める。

### 2 本年度の経営方針

- (1) 保護者・地域社会に対して積極的な情報発信を行い、教育活動への理解を推進。
- (2) キャリア教育推進本部を設置し、学校全体として総合的に取り組む。
- (3) 先進的な取組を研修し、指導内容の充実を図る（地域連携研修による推進）。
- (4) 進路実現に向け、早い段階から関係機関との連携を深めて推進。
- (5) 学舎連携を基本に、生徒支援会議の充実と組織的な課題解決への対応。

### 3 自己評価結果

- 評価段階 A：十分達成（A+B80%以上 [A1：A20%以上、A2：A10～20%、A3：A10%以下]）  
 B：だいたい達成（A+B65～80% [B1：A20%以上、B2：A10～20%、B3：A10%以下]）  
 C：改善すべき点あり（A+B50～65% [C1：A20%以上、C2：A10～20%、C3：A10%以下]）  
 D：不十分、見直し等の必要あり（A+B50%未満）

分野領域	評価項目	達成状況	評価（職員アンケート、学年・分掌・学科年度末反省より）	検討事項・改善の方策等
連携	①生徒の指導方針や学級/舎室の経営方針について保護者に十分な理解を得ている。	B3	・懇談、連絡ノート等を活用しているが、十分な理解を得ているかどうか。	・配布物の確実な配布、HPの活用等いろいろな場面で理解を得る取組を行う。 ・保護者懇談の参加者が少ない。学校への関心度を高める取組をする。
	②家庭や地域に対し、文書配布や各種連絡、学習の様子（HP）などを十分に伝えている。	B2	・HPブログ等により情報の発信が活発になった。活用をより増やしていく（職員を増やす）。	・生徒自ら作成したブログを充実させる（増やす）。 ・ブログ作成の手順の提示等、活用の活性化。
	③生徒の様子について、常に寄宿舎（学校）と連携をとりながら進めている。	B2	・十分ではないという意見が多い（時間がない、連携に必要な様式がない、情報共有の意識が低い等）	・担任と室担との連携の強化（生徒指導の方針の確認、打合せの実施等）。 ・生徒の課題行動に対する記録について様式を統一する。
	④生徒の主体的な進路選択を促すために、関係部署や保護者とときめ細かく連携した進路支援を行っている。	B2	・進路担当と担任の連携の一層の強化が必要。	・進路指導を担当中心に進めながら、進路支援部との協力体制をとる。
	⑤PTA 主催の活動に積極的に参加または協力し、活動の活性化に努めている。	D	・係に任せているという意見多数だが、関わりの必要性は十分認識している。	・PTA 行事の参加者を増やす。 ・学級レク等保護者と職員（担任）のコミュニケーションを深める活動の在り方を模索する。

危機管理・環境整備	⑥諸帳簿、PC データの管理等個人情報の保管・管理について細心の注意を払っている。	A1	・データの管理、紙類の処分等について、注意を払っている。	・個人情報保護規定の整備。
	⑦教室内の整理整頓や安全点検に注意を払っているなど教育環境の整備に努めている。	A2	・注意を払っているものの、整理整頓の必要性がある箇所も。	・物品庫、ロッカー上等の整理の実施。 ・寄宿舎、実習棟を中心に施設設備の更新が必要な箇所があるが、できるところからの更新を進め、なんとかやりくりする。
	⑧避難要領を理解して訓練を行う等、生徒の安全指導・安全確保に努めている。	A2	・生徒捜索や不審者対応の在り方について整備する必要がある。	・避難訓練の充実と生徒捜索や不審者についての対応（訓練）。 ・BCP（業務継続計画）に基づいた安全体制の確立 ・学校安全マニュアルの随時改善
生徒指導	⑨日頃より生徒の言動の理解に努め、相談に応じることができている。	B2	・個別の面談が有効。より良く深く理解に努めたい。	・生活面や学習面、進路希望等の面談をより充実させる。得た情報について適宜関係部署との情報共有を図る。 ・カウンセリング技能の向上を図るための取組。
	⑩生徒のあいさつや言葉づかい、身だしなみ等について、適切に指導している。	B1	・あいさつ運動やあいさつの段階のチェックが有効。 ・模範になるように自己の振り返り。	・生徒会などにおける自発的な活動を大事にしながら、継続して取り組む。
	⑪日頃より生徒の健康・衛生管理や疾病予防に努めている。	A2	・日頃の様子観察。	・インフルエンザ等の予防的対応を引き続き進める（エチケット、手洗い・うがい、家庭への注意喚起等）
	⑫日頃よりいじめの実態把握と早期発見・報告に努めるとともに、組織的な対応・課題解決を進めている。	B2	・見落としがあるかもという危機感を常に持つことが必要。 ・寄宿舎内での生徒による話し合いを設定した。	・生徒の課題行動に対する対応の在り方を検討する（懲戒規定の整備）。
	⑬携帯電話のネットコミュニケーションサービスの使い方や危険性について、適切に指導している。	D	・勉強不足、研修の必要性あり。保護者の協力・啓発の在り方等課題多い。	・校内ネットワーク規定の整備／見直し。 ・PTA における生徒・保護者も含めた携帯講習の実施 ・分掌部における情報提供やネットパトロールの充実。
教育課程	⑭生徒の生活する力を高めるための各教科の内容について、生徒の実態や生活年齢に応じた工夫を加えて進めている。（教務）	B2	・校内研修の充実、スキルアップの必要性。 ・各教科のおさえ、内容等についての理解度をより深める必要がある。	・教育課程の構造、指導の形態のおさえ等を全校で確認する（校内研修）。
	⑮生徒の働く力、生活する力を高めるための「合わせた指導」について、生徒の実態や生活年齢に応じた内容となるよう工夫を加えて進めている。（教務のみ）	B2	・校内研修の充実、スキルアップの必要性。 ・単元・題材の工夫。 ・合わせた指導のおさえ、内容等についての理解度をより深める必要がある。 ・SHR(日生)の時間を延長した。実施状況や成果を検証する。	・教育課程の構造、指導の形態のおさえ等を全校で確認する（校内研修）。 ・「生活する力」の内容を明らかにする（学校課題検討委）。 ・「生活する力」と「働く力」の関連を明らかにする（Ⅱ）。
	⑯生徒の自立的に生活する力の向上や、余暇の充実を図る指導・支援に努めた。（寄宿舎のみ）	A2	・部屋会の充実 ・身辺処理等苦手な面への指導が足りない。	・どんな生徒でも参加できるような活動の企画・実施。 ・実態把握と「日課の手引き」に沿った指導を意識した組織的取組を行う。

	⑰自己の考えを伝えたり、表現できるようコミュニケーションの力の育成について、生徒の実態に応じた工夫を加えて進めている。	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の専門性、コミュニケーション指導スキルの向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション技法、相談技法の学び。</li> <li>面談を重視し、生徒とのコミュニケーションの更なる深まりを図る。</li> </ul>
	⑱生徒一人一人の将来の社会人・職業人として必要な基礎的・汎用的能力の育成を目指した指導に努めている（※教育方針）	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導内容を明らかにすること（学校課題検討委等）</li> <li>指導方法の研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究部のまとめに基づいた計画づくりと実践、結果の考察。</li> <li>進路に関する情報提供をより積極的に行う（地域資源の活用、卒業生の事例の活用等）。</li> </ul>
	⑲生徒のキャリア発達を促すための、地域との連携を深めた実践を推進している。（※教育方針）	C2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年・学科で工夫を図りながら推進された。前進したと考える。今後は作業学習等で更なる工夫を図る。</li> <li>校内の身近な取組も重要。</li> <li>職員自ら積極的に地域と関わる必要性あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の専門性を生かした学校開放講座の実施。</li> <li>ウッドスタート、フラワースマイルプロジェクトの発展充実。</li> <li>各学科における作業内容の改善充実</li> <li>地域ボランティア活動の充実。</li> </ul>
	⑳生徒の学校生活をより豊かにするための学校行事の計画と実施に努めている。	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な動きを重視する。</li> <li>部活動の重要性を認識する。</li> <li>学校祭等の縦割り集団における情報の共有化の方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動における情報共有について、担当分掌を中心に、合理的な情報共有のあり方を提示する。</li> <li>部活動規定の制定</li> </ul>
	㉑食育の指導をとおして生徒の健康管理や「食」の大切さ等についての理解啓発に努めている。	C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事指導の在り方、食育の指導内容や時数、調理をしている人たちへの感謝等多岐にわたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育に関する研修の実施。</li> <li>食事の時間が充実するようになるための課題の明確化</li> <li>給食時間の確保（授業時間の厳守）</li> </ul>
	㉒個別の教育支援計画（個別の指導計画）に基づいて生徒の成長・発達を促す指導を行っている。	C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握、目標設定や評価の在り方等の共通理解。</li> <li>活用の在り方についてリサーチすることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標や評価を指導者集団で共通認識するための取組（目標設定週間、閲覧化等）を進める。</li> <li>目標の妥当性等の関連資料配布や研修等の企画</li> </ul>
	㉓生徒一人一人の障害や発達の特性に応じたきめ細かな授業や生徒指導を行っている。	C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害の特性の理解とそれに応じた指導の在り方をさらに追求する。</li> <li>評価が低いのは自分個人としての不安感があるからか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的な短時間のミーティングの実施の推奨。（目標、配慮事項等の確認）</li> <li>個別計の適切な目標設定と授業計画（指導内容の整備）</li> </ul>
研修	㉔研修会や学習会への参加をとおして、自身の専門性の向上に努めている。	C2	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部への研修会の参加に積極的ではないという意見多数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当部署による組織的計画的な研修参加を勧める。</li> </ul>
	㉕校内研究や研修会で学んだことを日常の授業や生活指導に生かしている。	C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携研修を実施した。</li> <li>学びを生かす方法は…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修を受けた後の振り返りについて、効果的に行う（研修ポイントの整理、HPの活用等）</li> </ul>
服務	㉖物品の購入や予算執行について、各部と連携しながら適切に行っている	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>物品の購入予算の設定変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・寄宿舎の物品購入の枠組みを見直す。</li> </ul>
	㉗パソコンの自動休止設定などの節電や節水、紙の再利用等コスト削減に努めている。	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる努力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーレス化の推進（諸会議等）、校務支援システムの活用法について検討。</li> </ul>

㊸職業人としてふさわしい服装や身だしなみ、振る舞いで地域や外部の人と接している。	A2	・より意識を持つ。儀式的行事における身なりや、外部からの来校者がある場合のいでたちに意見あり。	・生徒の規範となるようなあいさつ、身だしなみ、振る舞い等の意識化を言葉かけなどにより常に意識するようにする。
㊹諸会議の効率的な運営、業務の精選化に向けて創意工夫する等、職務の効率化に努めている。	C3	・長いスパンで会議日程を立てる（より計画的に）、会議の精選等の工夫意見あり。 ・難しい問題、改善の見込があるかどうか。	・ネットワークを活用した情報の周知等諸会議の効率化に努力する。

4 自己評価における特記事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価を徹底したことで、自己の反省だけでなく、改善案等も多く出されるようになった。学校改善に有益な意見が多く挙げられた。</li> <li>・真摯な態度で評価を行ったことが紙面から読み取れた。</li> </ul>
--